

令和4年度 吉川市立関小学校 学校公開用

この学校評価は、学校の現状やこれまでの努力とその結果を公表し、家庭・地域にお知らせするとともに、今後の取り組みに向けて家庭・地域の理解や連携協力をお願いするものです。

No.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての 評価の説明及び学校の考え	学校関係 者評価	評価に対する学校の説明・考察
1	学校教育目標の実現のため、様々な取り組みに努めている。	A	学校教育目標「ひとり立ちできる子」を具現化するため、教育課程を編成し、実践、評価、改善を積み重ねてきた。主体的・対話的で深い学びを実現するための工夫が多くみられるようになった。ICTの活用は市内トップレベルである	A	「ひとり立ちできる子」の実現に向けて、子どもが主体的に取り組む教育活動を計画・実践している。
2	学校は、児童生徒の学習環境の整備に努めている。	A	各教科で教材・教具の充実を図り、ICTを活用した授業をし易いように、学習環境の整備に努めた。児童に一人1台タブレット端末の配布を受け、有効に活用する方法を模索している。教室の不要ストープの撤去は安全上も課題	A	授業にICT機器を活用したり、学習コーナーの設置、学年で教室掲示を統一したりするなど、学習環境の整備に努めてきた。ICT機器の利活用は、市内小学校でもトップレベルである。
3	校長を中心として、全職員が協力して児童生徒のために努力している。	A	校長の方針を一人一人がよく理解し、それぞれの役割をしっかりと果たすことができた。また、年齢や経験に応じて全職員がよく協力できた。	A	校長を中心として全職員が協力して取り組んでいる「チーム関小」の取り組みに評価をいただいた。
4	学校は、保護者や地域に学校行事や授業を公開している。	A	コロナ禍で十分できなかったが、学校行事や授業を保護者に公開し、経営方針に対する理解と協力を求めてきた。保護者や地域は協力的である。今後も真摯に耳を傾け、学校経営の参考にしていく。	A	コロナ禍のため、公開できる機会が運動会や学校公開のみとなっている現状があるが、工夫して取り組みを公開していると評価していただいた。
5	学校は、学校の様子や成果を「学校だより・学年だより」等を活用し、情報提供している。	A	学校だよりでは、経営方針（校長の考え）や時季に応じた記事内容によって日々の教育活動や子ども達の様子について情報提供してきた。学級だより、保健だより、またC4thHome&schoolに必要な情報提供も進められた。	A	学校での子どもたちの様子や必要な情報を学校だより、学級だより、C4thHome&School等を使ってよく発信していると評価いただいた。
6	学校は、保護者や地域からの相談や要望に応えている。	A	「教育相談の日」を設定し、保護者の相談や要望に誠実に対応してきた。保護者からの相談に対して、どの教員も丁寧に対応している。今後も報告・連絡・相談を密にして組織的に対応していく。	A	「教育相談の日」を設定し、保護者の相談にも応じている。日々の保護者や地域の要望に対しても誠意をもって対応してきた。
7	児童生徒は、落ち着いた学習に取り組む、学習内容を理解しようとしている。	A	授業規律の徹底に向けた指導を進め、落ち着いた学習に取り組む児童が増えた。現状では、個別に指導・支援を必要とする児童も多い。今後も粘り強く指導していくとともに、保護者とも連携した取り組みを進めたい。	A	授業中は静かに学習に取り組んでいる学級が多い。また、学習規律が身についていない児童や配慮を要する児童への個別の指導を継続している。
8	学校は、教材や指導方法を工夫し、児童生徒にわかりやすい授業を心がけている。	A	学力向上に向けて、ICTを利活用した授業改善や、自己の課題に応じた朝のドリル活動なども含め、学力の向上に向けた取り組み数sめている。また、県学力学習状況調査の結果から課題を把握し、苦手を補う手立てを行った。今後も継続して授業力の向上に努めていく。	A	一斉指導と、個に応じた指導を行い、ICT機器の利活用を含め各教科で主体的・対話的で深い学びの実現を目指した。学力の向上は関小学校の大きな課題である。
9	学校は、児童生徒の行動や能力を適切に評価している。	A	よさを生かすことこそ教育の基本である。学習面でも生活場面でも一人一人の良さに目を向けた声掛けや評価を随時行っている。	A	新しい評価に対応するため、学習に取り組む姿勢や学習過程も重視して評価している。今後も児童自身や保護者にもわかりやすい評価の方法を検討していく。
10	児童生徒は、進んであいさつをしたり正しい言葉づかいをしたりすることができる。	B	あいさつについては力を入れているが、なかなか向上が見られないのが現状である。また、言葉遣いについても、教師の前と子供たちだけの時との落差も大きく、トラブルの原因になることもしばしばである。コロナ対応の出口も見えてきた中で、全職員で声を掛け合い、常に意識を高く持って指導を継続していく。	B	挨拶・言葉遣いに関しては、継続した課題であると考えている。新型コロナの取り扱いの変更に見据え、より積極的なあいさつができるよう改善に向けた学校での取り組みを進めていきたい。
11	児童生徒は、学習のルールや生活の決まりを守ることができる。	B	学校として学習や生活のルールや決まりについて生徒指導教育相談部会を中心に共通理解・共通行動を行ってきた。今後も適切な児童理解をもとに、指導を徹底していく。	A	学校のルールや生活の決まりを守って生活できる児童が多くなっている。守れていない児童もいるので、引き続き粘り強く指導を続けていく。
12	児童生徒は、時間を守ることができる。	B	中央中学区として連携して取り組んでいる「2分前着席」を進めているが、実態としては「声かけ」をしないとまだまだ意識が低い児童もいることは事実である。今後も指導を継続し、さらに定着させていく。	A	2分前行動が定着し、高学年は担任が声をかけなくても時間を見て行動できるようになってきた。
13	学校は、規範意識を高めるための指導に取り組んでいる。	A	集団として規範意識を高めつつ、同時に一人一人の心をはぐぐむ指導を、各学級を中心に取り組んでいる。また、廊下歩行や校庭の使い方など、なぜ守らなければならないのかを明確にした指導を行い、規範意識を高めていく必要がある。	A	毎月の生活目標を設定し、学校・クラスの決まりを守れるように、各クラスで発達段階に応じた指導を行っている成果を評価していただいた。今後も継続していく。
14	児童生徒は、体育の授業や部活動又は外遊びに意欲的に取組んでいる。	A	朝マラソンを学年や学級単位で行うなど、さらに意欲を高めようという工夫がみられる。また、普段の体育の授業を通じた体力向上に向けて、学年や学団での指導方法の研修も進んでいる。教員の授業力も向上し、体育が好きという児童も増えている。	A	朝マラソン・ダッシュに励み、休み時間は元気に遊ぶ児童が多い。特に朝マラソンは、取り組み方を工夫し、意欲の向上に努めた。
15	児童生徒が、健康な生活を送れるよう食育に取り組んでいる。	A	毎月、生活アンケートの実施し、その結果を体育たよりとして学期末に発行した。また、朝ごはんの大切さ、睡眠の大切さなどを伝え、生活習慣の改善に向けて保護者と連携した取り組みを行った。継続して行うことで効果が上がると考えられるので、今後も継続していく。	A	学校栄養職員による全学級への食育指導を行った。保健だより等も活用し、健康な生活習慣の育成を図った。給食の時間が短いとのご指摘もいただいている。継続して検討を進める
16	学校は、児童生徒の健康・安全や体力向上に向けた取り組みを行っている。	A	安全計画や保健計画に基づいて健康観察、定期健康診断、発育測定、安全点検などを確実に実施してきた。また、各学級で体力作りに取り組むことができた。今後も継続していく。	A	昨年度の体力テストの結果をもとに、体力の分析を行い、個人の課題に応じた体力の向上に向けて様々な取り組みを行った。
17	学校は、児童生徒の立場に立ち、一人一人の思いや願いを大切にしている。	A	生徒指導や教育相談は全体計画に基づき、学級・学年指導を中心に行っている。要配慮児童について生徒指導教育相談部会で共通理解・共通行動を図り、より多くの目から支援できるように努めている。一人一人への丁寧な対応は、働き方改革の本旨でもある。	A	学校の業務負担軽減は、一人一人の子供に向き合う時間の確保が本旨である。引き続き児童一人一人を大切にした指導を進めていく。
18	学校は、いじめや不登校をなくすため、児童生徒への指導の充実を図っている。	A	不登校傾向の児童についても担任を中心に多くの職員が関わり、改善に向けて取り組むことができた。いじめの早期発見と早期対応に努め、豊かな人間関係を醸成することができた。また、関係機関を積極的に活用し、適切に対応できたことも多かった。ただし、対応としてうまくいかないことがあったことも重大な事実としてとらえている	A	毎月の生徒指導教育相談部会で、全職員で共通理解・共通行動に努めた。また、生活アンケートを活用し、いじめの早期発見・早期対応を心がけた。いじめ対応については、全校での対応となるが、うまくいかないこともあった。